

# 事務局提出資料

(長期増分費用方式に基づく接続料の平成28年度以降の算定の在り方について)

---

平成27年3月18日

# NTT東西の接続料収入の内訳

委員限り

1

○平成25年度のNTT東西の管理部門における接続料収入のうち、LRICに係る接続料収入の部分は

○ただし、他事業者使用料で見た場合、接続料収入の

※ 振替網使用料は、NTT東日本(西日本)の管理部門と利用部門と間で取引される振替額。  
 ※ NTT東西の利用部門も含めた収入は30,561億円(振替網使用料及び付帯事業を除く)。

## < NTT東西(合算)の接続料収入の内訳 >

(単位:億円)

	接続料収入	LRIC				
		左記以外	NGN	メタル	加入光	
合計	14,505 (100%)		1,670 (11.5%)			
振替網使用料	10,945 (100%)		1,392 (12.7%)			
他事業者使用料	3,559 (100%)		277 (7.8%)			

※ 接続会計報告書(平成25年度)より作成。  
 ※ 営業収益のうち、接続料収入の他事業者使用料は11.6%(3,559億円/30,561億円)

## < (参考) NTT東西別の接続料収入の内訳 >

(単位:億円)

	NTT東日本						NTT西日本					
	接続料収入	LRIC	左記以外	NGN	メタル	加入光	接続料収入	LRIC	左記以外	NGN	メタル	加入光
合計	7,462 (100%)			874 (11.7%)			7,042 (100%)			795 (11.3%)		
振替網使用料	5,647 (100%)			736 (13.0%)			5,298 (100%)			655 (12.4%)		
他事業者使用料	1,814 (100%)			137 (7.6%)			1,744 (100%)			140 (8.0%)		

※ NTT西日本のLRIC収入には、NTT東日本から支払われた東西交付金を含まない。

## 【PSTNに係る接続料算定の在り方について】

- PSTNの需要減やNGNへの移行等、PSTNを取り巻く環境の変化を踏まえ、今後の接続料算定方式の在り方についても考えるべきではないか。(佐藤委員)
- 現在の固定電話のトラヒックが、制度導入時の平成12年度比で約16%までに減少していることを踏まえ、長期増分費用方式に係る検討の在り方についても見直す必要があるのではないか。(関口委員)

## 【PSTN(加入電話)接続料とNGN(ひかり電話)接続料の加重平均方式の提案について】

- 加重平均方式について導入の考え方を整理すべきではないか。(佐藤委員)
- 加入電話とひかり電話について、技術の違いから別のサービスとして扱うのか、同じ音声サービスとして扱うのか、議論が必要ではないか。(佐藤委員)
- 加入電話とひかり電話は同じ音声サービスと言えることから、両者の需要を共通化する考え方もあるのではないか。(池田委員)

## 【NTSコスト(き線点RT-GC間伝送路コスト)の接続料原価への算入について】

- NTSコストの算入が接続料上昇の大きな要因の一つであれば、関係する委員会に制度の見直しを要望することも検討すべきではないか。(山下委員)
- ユニバーサルサービス料の番号単価が2円まで下がっている一方、NTSコストについて「当分の間、接続料で回収」とされているが、「当分の間」がいつまでなのか、議論が必要ではないか。(関口委員)

## 【NTT東西均一接続料について】

- 東西別に接続料を設定することを検討する場合には、全国で事業を行う事業者と一部地域でのみ事業を行う事業者とでは、ビジネスへの影響が異なる点を考慮する必要があるのではないか。(佐藤委員)